

会 議 名	MINATO まるごと留学事業支援業務委託 第4回事業候補者選考委員会
開催日時	令和7年8月4日（月）午後2時から午後4時まで
開催場所	港区役所 915 会議室
委 員	【出席】 文化芸術事業連携担当部長 横尾 恵理子（委員長） 産業・地域振興支援部観光政策担当課長 寺戸 尚美（委員） 子ども家庭支援部子ども政策課長 西川 杉菜（委員） 教育委員会事務局教育推進部教育長室長 若杉 健次（委員） 教育委員会事務局学校教育部先端教育担当課長 溝口 貴裕（副委員長）
事 務 局	地域振興課国際化推進係 目時、黒岩、木島
会議次第	1 開会 2 第二次審査実施概要について 3 事業候補者によるプレゼンテーション及びヒアリングの実施 4 第二次審査結果及び事業候補者の選定について 5 その他 6 閉会
配付資料	〔席上配付〕 資料1 第二次審査実施概要 資料2 採点基準表（第二次審査） 資料3 第二次審査における共通質問事項趣旨 資料4 第二次審査結果・総合結果表（※採点終了後、机上配布） 参考資料1 第2回選考委員会議事録概要 参考資料2 第3回選考委員会議事録概要 参考資料3 第一次審査集計結果 参考資料4 MINATO まるごと留学事業支援業務委託事業候補者募集資料
会議の内容	
A事業者	1 開会 （省略） 2 第二次審査実施概要について （事務局からプレゼンテーションの概要を説明） 3 事業候補者によるプレゼンテーション及びヒアリングの実施 <プレゼンテーション>

事務局	選考委員から質問します。
E 委員	区内ホームステイについて、ホストファミリーとのマッチングで重視している点は何ですか。
A 事業者	事前にアレルギー対応等要配慮事項を聞くことです。要配慮事項について、対応可能であるかも確認します。 また、参加する子どもたちに自己紹介文を作成してもらい、その情報も参考に、ホストファミリーとマッチングしています。
E 委員	事前研修や具体的実施内容、危機管理以外で受入側が重視することは何ですか。
A 事業者	異文化交流、港区の魅力をどのように発信していくかが重要になってくると考えているため、異文化を伝えられるアクティビティについて、ホストファミリーと準備していきたいと考えています。
E 委員	継続的にホストファミリーを増やしていくことになるかと思いますが、他の自治体とのやり取りの中で、今後の展望について、考えていることはありますか。
A 事業者	参加したホストファミリーが、ホームステイ事業が良いものであることを口コミで友人などに広めてくれている。 事業を実施したことの記事を書き公開し、事業に興味を持ってもらい、PRをしていくことを考えています。
D 委員	予想外の対応、臨機応変な対応が必要な際の、区とのやり取り、思っていた以上に企画資料等を作らないといけなくなった場合など、想定メンバーで足りなくなった場合、人員を増やし、対応することは可能でしょうか。
A 事業者	人員は、関東在住メンバーを中心としていますが、沖縄から人員を増員することで対応することが可能です。
D 委員	事故までいかないトラブルについて、これまでの横浜、沖縄の事例で、当日トラブルで大変だったことは。トラブルについて、対応可能ですか。
A 事業者	料理を作ってお腹が痛くなったということがありました。 緊急連絡先を配付するので、トラブルが生じた際に連絡を取る体制は整って

	います。また、現地でもオンラインでも、日本語・英語で対応ができる体制を取っています。
C 委員	まち歩き交流の英語サポーターは、どのような基準で選ぶのですか。
A 事業者	18 歳以上の大人で、英語がネイティブかどうかは条件にはしていません。 オンライン面談で、プログラムの趣旨を伝え、コミュニケーションを取り、アクセントが強すぎないかなどを確認しています。また、子どもに何か教えたりしたことがあるかなど、コミュニケーションの経験はあるかということも確認しています。
C 委員	日本人が英語サポーターになることはありますか。また、何か国くらいの人がいるのですか。
A 事業者	日本人が英語サポーターになることはありません。 現在、400 名ほど登録があり、国籍は 80 以上になります。日本語レベルは重視していません。
C 委員	事業実施時、思わず日本語でコミュニケーションを取ってしまうこともあるかと思いますが、研修などで、英語で交流することを伝えるのでしょうか。
A 事業者	すぐに日本語でサポートするのではなく、英語のやさしい単語で伝えてみましょう。ということを研修で取り入れています。
C 委員	英語サポーターの研修は、1 回何時間で実施する等目安はありますか。
A 事業者	1 時間の研修は必修としています。 本事業に参加する英語サポーターは、弊社に登録済みであり、同様の事業に参加したことがある方にご協力いただく予定です。
C 委員	ビザや不法滞在等の確認はするのでしょうか。
A 事業者	ビザの確認は行いませんが、犯罪歴や学生なのか、社会人であれば勤め先も確認しています。
C 委員	英語サポーターは、18 歳以上の方ということでしたが、一番上だと、どれくらいの年代の方がいますか。

A事業者	90代の方もいらっしゃいます。 仕事を退職し、子どもたちと一緒に国際交流をしたいという方もいます。
C委員	まち歩き事業での経験を通じて、子どもたちのどのような能力を伸ばすか、狙いはありますか。
A事業者	異文化に触れることが大切であると考えています。 普段港区内を歩いている子どもたちに、参加を通じて、港区の新たな魅力を発見し、どのように英語で伝えるのか、英語をツールとして異文化交流を楽しんでほしいと考えています。
A委員	様々な業務を請け負っているかと思いますが、本事業にどれだけのリソースを割くことができますか。
A事業者	責任者及び従事予定者は、本事業に専属で従事する予定です。 特別チームを組み、兼務となる担当者も長期的な計画を社内で立て、引き継いでいく形を取ります。 体調不良等により長期でチームから外れることとなる者が生じた場合も、補充する形を取る予定です。
A委員	区が実施するこのような国際化事業について、貴社から見てどのように思いますか。
A事業者	英語を学び、異文化交流をしたい子どもたちは、どうしても外に目を向け、海外留学をしなければならないと感じていることが多いと思いますが、港区には大使館等が数多く立地しているため、たくさんの外国人の方がいて、このように交流できるという新しい経験を持って帰ってもらえたら良いと思っています。
A委員	まち歩き交流について、貴社が港区のことを知っていないと難しい部分もあるかと思いますが、どのように事前に調整されるのでしょうか。
A事業者	弊社のスタッフが実際に街を歩き、エリアについて相談させていただきたいと考えています。 区内の説明書き等、日本語と英語で記載があるものを確認し、参加者と英語サポーターのミッションで使えるものをリサーチしていきます。
B委員	先ほど、事故までとはいかないトラブルについてお聞きしましたが、実際に

	ホームステイやまち歩きで事故になってしまった、若しくはけが人が出たなど、事件に発展したというような事例は過去にありますか。
A 事業者	事故になった事例は過去にありません。 ホームステイ中に転び、骨折してしまったことはありますが、交通事故等事件になってしまったことはありません。
B 委員	骨折後の対応についてお聞きしたいです。救急搬送はしたのでしょうか。
A 事業者	救急搬送はしていません。 ホストファミリーが電話等で弊社に連絡を取り、けがの状況等を写真などで共有し、参加者には日本語で確認し、対応しました。 保護者にも電話し、ホストファミリーが病院に連れて行きました。弊社スタッフも病院に急行しました。 緊急連絡体制図を作成し、ホストファミリーと 24 時間体制で連絡が取れるようにしています。
B 委員	ホームステイについて、大使館等との打合せを予定していますが、限られた時間の中で、調整していただくことあるかと思いますが、そのあたりは柔軟にご対応いただけますか。
A 事業者	はい。大丈夫です。
事務局	質問及び審査は以上になります。
B 事業者	<プレゼンテーション>
事務局	選考委員から質問します。
E 委員	適切なマッチングを行うための取組について伺いたいです。アプリを使ってヒアリングするのでしょうか。
B 事業者	安全対策を重視してマッチングを行います。 ヒアリングでアレルギーや趣味、英語能力について確認します。 類似事業実施時に、なかなか英語で会話ができずに終わってしまい、悔しかったという声をいただいているため、ホストファミリーの英語能力、参加者の英語能力とを確認してマッチングを行います。

E 委員	ホストファミリーへの事前研修について、具体的な内容を教えてください。
B 事業者	経験があるか、ないかにもよりますが、一律でお客様ではないということを伝えたいと考えています。 あくまでもホームステイであり、ホテルや旅館とは異なり、家族の一員になるということをご理解いただき、家族の一員として対応していただくようお願いいたします。
E 委員	アプリの利用について、類似事業で効果はありましたか。
B 事業者	事例は多数あります。 スラックと連動しており、リアルタイムで状況を共有することが一番のメリットであると考えています。 アプリを利用した際に、チェックポイントに参加者が行っていない、一人足りないなど、状況を把握することができ、すぐに探しに行けたりという事例がありました。
D 委員	予想外のトラブルについて、4名体制でいただいておりますが、作業量が多くなった際、新たなチームを編成することは可能ですか。 当日のトラブルについても、想定外に多くなり、人の手配が必要となった時に対応はできますか。
B 事業者	作業量が多くなった際のチーム編成については、すぐに動けるものが50名ほどいるため、チームを再編します。 当日のトラブルについて、人出が足りない場合については、先ほどの対応可能な50名の中から対応します。
D 委員	2つの事業を実施することになるが、契約をすることとなった場合、全体のスケジュールはどれくらいで出せますか。 いただいたマニュアルの資料は、古いものでしょうか。
B 事業者	スケジュールについて、まち歩き交流は1か月ほどあれば実施可能と考えています。ホームステイについては、2か月ほどあれば、整えられると考えています。 マニュアルは、ご指摘のとおり、古いものとなっています。 マニュアルの更新は、1か月ほどあれば対応できます。
C 委員	英語サポーターの選考基準を教えてください。

B 事業者	国内の留学生、大学生を中心に選定します。 弊社とパートナーシップを結んでいる事業者や、連携している大学と協力し、選定できればと考えています。 選定する際に重視するのは、意欲です。お子さんと接し、どうしていきたいかということを小論文や面接で把握し、選定できればと考えています。 類似事業では、日本で先生になりたい、教育の現場に携わりたいという思いがある方を中心に選定してきました。
C 委員	国籍は選定の際に確認しますか。
B 事業者	第一母語が英語でなくても、英語で話しをできる方であれば良いと考えています。多文化理解も本事業の重要な取組であると考えているためです。
C 委員	日本語の能力はどの程度必要と考えていますか。
B 事業者	日本語の検定で 2 級以上の方を選定します。 過去の類似事業で日本語が流暢な方だと、日本語でコミュニケーションを取ってしまい、英語の学習、新たな文化理解が進まない可能性があるためです。
C 委員	ビザは留学生ですか。
B 事業者	留学生です。
C 委員	事前研修は、何時間で何回ほど実施予定でしょうか。
B 事業者	参加者と英語サポーター向けの研修について、先ほどお伝えした選定方法の小論文の提出についても、研修の一つと考えています。 研修は、3 回ほど実施予定です。
A 委員	これまでも区の国際化の事業にいくつか関わっていらっしゃいますが、今回の事業について、貴社としてどのような目的を持ち、寄与することができると考えていますか。
B 事業者	過去の類似事業では、英語を話せずに 1 日が終わってしまった、事前にもう少し勉強しておけばよかったという声をいただいていた。 そういった声を英語サポーターにも共有し、英語の単語でも良いので、引き出せるよう伝え、少しでも異文化理解、コミュニケーションを取れるようにし

	ていけたらと考えています。
A 委員	まち歩き交流の提案で芝エリアとした理由を教えてください。 また、他の地区で実施も可能ですか。
B 事業者	芝地区は、文化や歴史が分かりやすく、本庁舎からも近いエリアであり、安全が確保しやすいこと、また、インバウンドの方にも人気の地域であることから、提案しました。 芝地区でしかできないということはありません。
A 委員	デジタル技術を活用するという話がありましたが、ホストファミリー選定後のフォローはありますか。
B 事業者	早めにマッチングを終了させることで、参加者とのやり取りができる時間が生じ、安心感を与えることができると考えています。事前にやり取りをすることで、準備もスムーズに進むと考えています。 また、アプリについては、ホストファミリーに差し支えない範囲で導入してもらい、当日の他の家庭でのやり取りも把握し、理解してもらえようようにしたいと思います。
B 委員	類似事業で事故や事件になったことはありますか。
B 事業者	ここ数年ではありません。 海外で忘れ物をしたということはありませんでしたが、海外の支店と協力し、対応しました。
B 委員	数年前には事件、事故はあったということでしょうか。
B 事業者	おそらくありました。 海外で飛行機が遅れる、飛ばなくなるといったことがありました。その際も、現地の海外支店と協力し、対応しました。
B 委員	行方不明の子が出てきてしまった場合、何を一番大事にして、どのように対応しますか。
B 事業者	心配や不安といった感情を拾わせないようにすることです。心のケアが一番重要だと考えています。

B 委員	ホームステイにおいて、大使館との打合せが必要になってくると思いますが、なかなかスケジュールが合わないことも想定されますが、ピンポイントでここでしか打合せができない場合でも、対応できますか。
B 事業者	弊社の業務上、毎日大使館とやり取りをしています。 大使館の特性も理解しているため、事務局全員で対応します。
事務局	質問及び審査は以上になります。
4 第二次審査結果及び事業候補者の選定について	
委員長	事務局から、第二次審査結果及び総合結果の報告をお願いします。
事務局	集計の結果、二次審査の結果が、A 事業者 385 点、B 事業者 346 点となり、総合結果は、A 事業者 1,127 点、B 事業者 984 点となっています。 審査に当たり、評価したポイントなど、各委員から順番に講評をお願いしたいと思います。
E 委員	A 事業者について、提案・実現性があり、質問にも適切に答えていると感じました。安心して事業を任せられることができると感じたため、B 事業者より評価を高くしました。 B 事業者については、分かりやすく答えていて、危機管理能力も高いと感じましたが、提案内容、ホストファミリーとのマッチング方法、研修内容について A 事業者と比較すると劣る印象がありました。
C 委員	A 事業者、B 事業者ともに 3 以上の評価を付けました。 A 事業者について、事業をよく理解し、答えていたという印象で評価を高くしています。実現性も感じました。英語サポーターについては、年齢層が広く、子どもたちの親近感が湧くか分からないところもありますが、経験がある方がサポーターになるということで、評価しています。
A 委員	B 事業者について、修学旅行等、経験が豊富であるため、少し評価できると感じました。
B 委員	A 事業者の方が、B 事業者と比べると、類似事業を既に展開していることもあり、質問を投げかけても具体的な提案、回答になっていたと感じました。 B 事業者も類似事業の経験からしっかりと答えていただいていたと思いますが、ア

	プリ以外の人と人のつながりが具体的に見えてきませんでした。
委員長	各委員からの講評、意見交換を踏まえ、採点を変更する委員はいますか。
C委員	他の委員からの意見を踏まえ、A事業者の提案の実現性の採点を 30 点から 24 点に変更したいです。
委員長	事務局から再集計の結果の報告をお願いします。
事務局	再集計の結果、二次審査の結果が、A事業者 379 点、B事業者 346 点となり、総合結果は、A事業者 1,121 点、B事業者 984 点となっています
委員長	再集計結果を踏まえ、A事業者を事業候補者としたいと思いますがいかがでしょうか。 (異議なし) 5 その他 (事務局から今後の流れを説明)
委員長	6 閉会 以上で本委員会を終了します。